

個別のご意見

※意見者等を特定できる情報及び他者を中傷するような表現を除いています。

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿

No.	ご意見
1	長期計画をたて展望をもつての高校の在り方を作ることはとても良いことだと思います。
2	今ある学校、今やっている施策をどう評価し、今後どうしていくのか。バックキャストだけではなく、フォアキャストの視点からの検討を同時に行うべきです。
3	0 ページ 県立高校のあり方検討の進め方 4 行目「教育を提供する」は不適切。教育は提供するサービス（商品）ではありません。 7 行目「バックキャスティング」というが R 2 0 の目指す姿が全く描けていない。したがってそこから逆算した途中の姿を描く構想は破綻している。
4	1 ページ 「新時代」の定義が暗すぎる。新時代という言葉から連想する明るさが全くない。
5	[学校規模と配置数について] 1、学校間の学力格差の拡大と高校受験における一段の過激化の恐れについて 現実の社会は学歴社会です。学歴別賃金差（「所得別の進学率、学歴別の生涯賃金」労働政策研究・研修機構調べ（H28）より）がそれを物語っています。ですから、高校を偏差値に基づいて序列化し「ほとんどの生徒が大学等へ進学する高校」、「進学と就職が混在している高校」、「多くの生徒が就職する高校」に大別されます。生徒側からみれば、高校進学率 99.3%（ほぼすべての中学生）です。生徒の成績で進学する高校が決まります。そして、その様な現状の中で、大規模校の学科構成なども含めると、大規模校が県内のエリート校化することは容易に想像できます。これでは、少子化の中でますます受験競争が過熱化し、小中学校の児童生徒間に、より過度な競争意識が起き、「不登校児童生徒数」、「いじめ」、「暴力行為」、「自殺」が今後とも増え、異常な学校環境にならないか懸念されます。 2、教育格差の拡大と少子化の更なる深刻化の恐れについて 日本の教育は、一斉に平等に教えられても、理解したかどうかは、その子や家族の責任になります。なので、塾にいくなど児童生徒の家庭の経済状況（親の所得など）如何によって、その子の理解度（学力）も大きくかわってくる（教育格差）ことが、問題になっています。これは所得の低い世帯ほど大学の進学率が低い。また、学歴により生涯賃金に大きな差が生じているからです。富山県でも教育格差が明白になっています（「子どもの貧困の社会的損失推計」日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2016）。このような状況下で、大規模校を中心により学校間格差（偏差値による）がつけば、少子化の中で、競争がより過激になり、教育格差が今より拡大し、ますます学力や進路に大きな差が生まれてきます。また、このように経済的格差如何で、子どもに対して十分な教育を受けさせられないという社会的雰囲気、子どもを産み育てようという意欲の喪失に繋がり、ますます少子化が深刻化していく。これらは大きな問題だと考えます。
6	県立高校の再編問題について 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を実現するためには、今日の教育制度における問題・課題を踏まえた構想でなければ、素案の副題にあるような「学びたい、学んでよかったと思える県立高校」にならなくなることが懸念されます。そこで、まず[県立高校のあり方検討の進め方]、[県立高校を取り巻く状況の変化]について意見を述べさせていただきます。 1、小中高の 12 年間の教育をほぼ終えた 18 歳の意識調査（「国や社会に対する意識（6 か国）調査」日本財団 2024）があります。・「学校で勉強する意味として重視してきたもの」、「仕事を選ぶうえで重視するもの」、「なりたい職業」の調査項目に対して、回答項目の「特になし」が、日本は他国に見られない多さでした。何か諦観や無力感の様なものが感じられます。・「自分のしていることには目的や意味がある」、「将来の夢を持っている」、「自分は他人から必要とされている」、「自分には人に誇れる個性がある」という調査項目に対し「はい」と回答する肯定率が他国と比べて大変低いものでした。自尊心や自己肯定感が低い状況が見て取れます。予測が困難な時代に際しては、高校を卒業した後にも様々な判断を求められる機会に直面することになるのに、学びへの意欲や自己肯定感がともに低い現状。これは、学校教育のあり方が問われている側面もあると考えます。再編を検討する際に、ここをどう評価し、どう踏まえるのかということです。 2、小中の義務教育 9 年間でほぼ終える 15 歳の意識調査（「先進国の子ども幸福度調査」ユニセフ 2020）があります。・精神的幸福度は、OECD 38 か国中 37 位と大変低いものでした。「不登校児童生徒数」、「いじめ」、「暴力行為」、「自殺」が増え続けている学校環境がバックボーンにあり、中 3 生にストレスが積みあがっているのではと考えられます。・社会的スキル（友達をつくるなど）を身に付けている割合についても 37 位でした。いじめや暴力行為が増え続けており、いじめの重大事態が 1000 件を突破するなど、児童の発達に異変が起きているのではと懸念されます。国連の子どもの権利委員会は「不登校児童生徒数」、「いじめ」、「暴力行為」、「自殺」が増え続けているのは、日本の「過度に競争的な教育制度」によるとしています。また、2010 年には、「子どもの数が減少しているにもかかわらず、過度な競争への不満が増加し続けている」とも指摘（国連の子どもの権利委員会の日本の子どもに関する「懸念と勧告」より）しています。高校は、進学率が 99.3%に達し、中学校を卒業したほとんどの生徒が進学する教育機関となっています。高校の再編問題を通して、この様な義務教育段階の問題を国連の子どもの権利委員会が指摘するように、「教育の質を維持しながら学校制度の競争的な性格を抑制」する方向に繋がるようにすることも大事な視点ではないかと考えます。

7	新聞報道によると、2024 年度の子どもの出生数は 70 万人を切り、一方不登校やひきこもりの人は 34 万人を超えたと言う。私はこの数字を見て、啞然とした。そして改めて思う。この新しく生まれてきた子ども達を一人も取り残すことなく、一人ひとりが自分らしく生き生きと社会で活躍できる人間に育てなければならない。それが教育の一番大きな課題である。今までの教育方法でよかったのか。今の教育制度でこの先よいのだろうか。一度立ち止まって考える時期に来ているのではないだろうか。
8	富山県の未来は今の中学生、高校生にかかっていると言っても過言ではない。偏差値で大学を選ぶ時代は遠からず終焉を迎えるであろう。人はやりたいことが見つければ自然に集中し努力するものである。自分がみつけた夢をどう実現させていくのか、その方法なり、道筋をたてる力をつけていくのが、これからの高校教育に求められる。高校の数ありきではない。富山県民はどんな教育を望んでいるのか、行政はどんな教育を提供したいと思っているのか、こういう教育をしたいから、そのための施設・設備はどこに、いくつ必要か。そこから議論が始まるべきではないか、と考える。教育には時間とお金と手間（人）がかかる。しかし、教育水準の高いコミュニティでは、（１）犯罪発生率が低く、（２）住民の公衆衛生意識が高く、ワクチンの接種率、健康診断の受診率が高いので医療費が低く抑えられる。（３）正社員率が高いので平均年収も多く、したがって納税額も多い。（４）生活保護費の受給者率も低い。教育の効果は社会のあわゆる局面であられる。富山県は山もあり、海もあり、自然豊かな土地である。この自然環境の中から、次の A I 時代を生き抜く人を育てることがこれからの教育の目標であり目的である。そのために、これまでにない全く新しい発想で教育行政を進めて欲しい。
9	素案を拝読いたしました。私の理解が及ばないことが多々あることや、私が勤務する特別支援学校についても疑問があったので投稿させていただきました。先日発表された、県立高等学校の志願倍率が 0.99 倍であったことや、今後のさらなる少子化問題を踏まえて、再編成は必要と考えます。
10	新時代と掲げているが、現在の価値観や社会的な状況が将来も持続するという前提が強すぎるのではないか。公教育が担うべき、社会統合の役割を重視すべきである。学校の序列化は、これまで以上に社会の分断につながる危険性がある。
11	まず、予測困難な時代に学校再編を進めること自体が矛盾しているのではないかと感じます。将来の変化が見通せない中で、なぜ現時点での再編が最適なのかが明確ではありません。県としては、こうした不確実性に対応できる人材の育成や、人口増加の施策が急務であると考えます。そのためには、ファミリー層が県内のどの地域にも移住しやすい環境を整えることが重要です。都市部への人口集中ではなく、県内各地でバランスの取れた人口増を図ることが、変化の激しい時代に柔軟に対応するための近道ではないでしょうか。
12	「県立高校の基本目標」は人格の完成を目標とし、学習権の保障を強く打ち出すべきです。
13	2 ページ 県立高校の基本目標 「新時代」に適応し、未来を拓く人材の育成「時代に適応する」などということを教育の目標に掲げるなど、周りに合わせることを目標に掲げるから「指示待ち人間」になってしまふのである。「未来を拓く人材の育成」についても人材の育成が教育の一義的な目標なのか。基本目標が根本的に間違っている。「基本目標」が間違っている、計画全体が土台から間違っている。「現在の全ての県立学校（全日制）を再構築して新たな学校を開設する『新時代とやまハイスクール構想』」再構築の定義が不明。個別最適な学びと協働的な学びは両立しません。個別最適な学びは要らない。レジリエンスはビジネス用語。意味がわからない。ウェルビーイングはいい加減やめてもらいたい。
14	この基本方針は、単なる参考意見ならいいのですが、何らかの拘束力を持たせるなら、抜本的な検討が必要だと思います。理由は以下の通りです。 この方針では今後富山県、日本を背負う優秀な県民にはどのような能力、スキル、知識、教養、姿勢を身につけてもらう必要があるのかについての考察の結果が見えません。それなしでの方法論ばかりの議論は無意味、いや、有害でしょう。 他の国では、他の自治体ではどのような議論があり、どのような結果となっているのかを調査されたのでしょうか？教育関係で研究をおさめた、または知見を持っている人の意見は聞いているのでしょうか。それらが全く見えません。知性、教養、洞察が感じられないのです。大丈夫なのでしょうか？
15	「高校再編」の根底にあるものとして、「ウェルビーイング」掲げる富山県が、どんな地域、富山県がいかを考え、富山県の良さを確認することが大切です。都会と同じでなくてよいと思います。富山から若い女性が都市部に流出している現状があります。ある会合でその理由（生き苦しさ）が述べられるのを聞きました。その生き苦しさを少しでも改善するために以下の３点を大事にする教育が必要だと考えます。(1)自分らしく生き生きと生活・学べること (2)「周囲を大切にする」環境や人 (3)自由に物が言える雰囲気
16	「新時代とやまハイスクール構想」に異議あり 今回の高校再編構想には多くの問題点がある。確かに、少子化の波は止まる様子がなく、高校教育、高校の在り方が問われていることは理解できる。この難問をどうとらえ、民主的に改革するかは教育行政の責務であり、多彩な県民世論を結集せんと今、取組を展開されている皆様に心からの敬意を表したいと思う。しかし、観点が間違っており、方向が正しいとは思われません。史上最多の不登校、いじめや校内暴力は何故なくならないのか。極端なまでの学力格差はどうして生まれるのか。自主性・自立性に乏しい青年が多いのはなぜか。一言で言えば、日本の教育が過度な競争主義に陥っているからだ。主権者として平和な未来を創造する人間の育成が学校教育の目的ではなかったか。「新時代HS」は8種類の学校を提示しているが、結局は学力格差により振り分けになってしまうのは必至だ。“できる子”は中高一貫校、“できない子”はエンパワーメント高校へとなる。課程の経済格差がそれに拍車をかけることにも。新田知事は自身の富山高校時代の大学進学成績重視を振り返って「今が考え方の転換時」と述べているが、根本にメスを入れない改革は混乱を深めるだけではないか。
17	従来からの高校にとらわれない抜本的で、しっかり考えられた構想だと思います。特に県外出身者からの視点からは、富山市内にいわゆるエリート校が2つあることは、この少子化の中で今後の高校の再編を大きく妨げるものだと思っておりました。これから、具体化していく中で、それぞれの高校への愛校精神によって、様々な抵抗があると予想されますが、郷愁にはとらわれず、しっかりと次世代に残せる枠組みを計画していった下さい。よろしくお願いします。
18	「教育内容」が教育課程上、具体的にどんな科目（講座）になるのかわからない。教育プログラムとは何のことか。
19	大学受験への影響 学科編成が多様化することで、一般的な進学校と異なるカリキュラムが生まれ、大学受験対策が不十分になる懸念。特に難関大学を目指す生徒にとって、学校の学習内容だけでは不安が残る可能性。進学希望者向けに特化したコース（難関大学対策講座など）を設置。予備校との提携やオンライン学習支援を提供し、大学受験対策を強化する。

20	STEAMなるものは学術的な基盤のない一過性の流行に過ぎない。過度に傾倒すべき代物ではない。アートとリベラルアーツをごっちゃにしている時点でアウト。
21	グローバル人材の育成 グローバル化が進む中で、英語や異文化理解、海外との交流を強化する。特に、オンラインを活用した海外の高校との共同計画や、外国語でのディベート・プレゼンテーションを積極的に取り入れる。
22	デジタル・テクノロジー教育の充実 科学技術の進展に対応するために、プログラミング・AI・データサイエンスなどの基礎教育を充実させることが必要です。単に情報の授業を行うだけでなく、実社会での活用やテクノロジーと倫理・人間性の関係を考える教育も重要です。
23	普通系学科の④未来創造において、部活動の強化とありますが、段階的に中学校の部活動が衰退する中、その影響は高校の部活動にも必ず大きな影響があると思います。高校の部活動の強化とはどのようなイメージかつかめません。
24	さまざまな人と協働して社会参画できるように、学校規模ではなく地域との関わりを大切にしてほしいです。地域とのつながりや他校生と交流できるカリキュラムを組むなどで学校外の人やさまざまな人と関わる機会を増やすことはできるのではないかと考えます。地域との関わりを重視した特色あるカリキュラム(総合的な探究の時間など)は魅力的であり、ふるさと富山を知ること、考えることにつながると思います。
25	【学習指導のあり方】 現在の県内一律の入学試験のために、受験勉強が、中学生の学力や適性、関心に関係なく、同じ問題集、同じテストで点数だけを競う受験勉強になってしまっています。結果、基礎学力の身に付いていない中学生が、高校受験のための応用問題、発展問題に時間とエネルギーを奪われ、「勉強」に疲れています。「勉強」に自信がないだけでなく、無力感を感じている生徒もいます。また、中間層以下では、得意分野だけで点数を取ろうとし、総合点では分からない各教科分野の基礎学力のバランスの悪い生徒がおり、進学後に高校の勉強に躓き、学習意欲の低下を招いています。中学生までは、身体の成長と同じく思考力も成長に個人差があります。中学生の時は理解が難しくても、高校で、基本問題を反復学習で学び直せば、多くの子が中学までの基礎学力を習得できます。中学校から高校の間で、必要に応じて学び直せる仕組みが必要です。本人の努力不足とみなし生徒側の責任にして復習を個人でさせるのではなく、中学、高校側の責任として、補習の機会を設けなければならないと思います。高校の学習指導においては、普通科において、どの高校も毎年の進学実績がほぼ同じことが問題だと感じます。これは、目標設定が、国公立大学合格に偏っているために、生徒の学習の負担が大きく、入学時点の学力差が、むしろ拡大しながら大学受験を迎えることになっているからだと思います。補習の機会を増やし、学習方法を見直す指導をして学力差を縮めることが必要です。また、私立大学や推薦入試の受験指導が、肯定的になされていないため、国公立大学レベルの学力に満たない生徒がネガティブな気持ちで、私立や専門学校に進学しています。上位の私立大学に選択肢が広がるような受験指導も取り入れていただきたいと思います。少子化の現在、県全体で、中学校、高校の学力を底上げしていく丁寧な教育が求められていると思います。「できる子」を選ぶために、テストや宿題でふるいにかけられるような教育ではなく、必要な基礎学力を習得させる丁寧な教育が必要です。ふるい落とされた「できない子」が、必要な学習指導を受けられず、怠惰が原因だと生活指導をされ、ますます意欲をなくすのは不幸です。また、こういった成績評価のためのテストや宿題は、採点や提出のチェックをする教員の意欲も低下させると思います。テストや宿題が成績評価のために行われていることが、生徒にも教員にもマイナスになっていると感じます。さらには、補習を通して生徒の学習方法や特性を確認できないことで、福祉や医療の分野との連携が必要な生徒が見落とされているかもしれません。最後に、中学校、高校の、学校や教員の評価が、進学実績や就職実績に基づいて行われるのではなく、粘り強い地道で丁寧な教育が評価され、それを県民が知り理解することが、子どもにとって一番良い教育環境だと思います。その環境のもとで、新時代に合った形の高校再編が行われ、生徒が意欲を持って入学し、さらに意欲を高めて卒業する高校となることを願っています。
26	産業との連携の課題 地域の企業や大学との連携を強化するとしても、具体的な枠組みが不透明。実際に地域産業が求める人材育成が可能なのか不明。県内のどこに住んでいても均等に学べるよう、遠隔授業やオンライン学習を充実させる。地域ごとに特色ある教育プログラムを提供し、選択肢を増やす。
27	地域の強みを活かした教育 富山県は自然や伝統文化、産業(薬・ものづくり)に特色があります。これらを生かして、地元企業・大学と連携した実践的な学びを提供するのが重要です。例えば、地元企業と物品の共同開発に取り組むなど、地域貢献ができた実感できる学びをすれば良いと思う。
28	デュアルシステムというが、工場で学校教育を安全かつ適切にどうやって実現できるのか。くくり募集でスペシャリストは育成できない。
29	4ページ なぜ大中小がこの人数なのか。大と中、中と小の間の規模を否定するのは不合理。とくに400~480人の大規模校はいらない。R20の中卒生が6000人で県立高校全日制の生徒が4200人しかいないのに、現存しない400人以上の学校を2~3校作る必要があるのか。子どもが減るのに超特大校をつくって、その分学校数を減らすのは不合理。400人以上の学校は大きすぎる。教育環境として適正とは言えない。「多様な考え方に接すること」は400人以上いなくてもよい。小規模でも、中規模でも可能。
30	今後14年間ですべての高校を「再編(統廃合?)」するというのは暴論です。大規模校(1学年400~480人)、中規模校(200~240人)、小規模校(120人以下)とする根拠は何か。なぜ、現在11校ある121人~199人の規模、現在2校ある241人~399人の規模を否定するのか、合理的な理由がありません。なぜ、400人~480人の大規模校をつくらうとしているのか。40人学級で10~12学級の学校をあえてつくる理由は何か。大きすぎる学校のデメリットがあり、そもそも学校規模として適正と言えるのか疑問です。また、少子化が進む中で、現行以上の大規模校を作れば、その分減らす学校数が多くなり、通学できる範囲で学びたい学科で学ぶことができない生徒が増えることが予想されます。校舎新築には大きな財政支出が必要ですが、そんなお金があるのなら、今すぐ老朽施設の改修、教職員定数の改善等をすべきです。
31	教師が子供たち一人ひとりに目が行き届き、それぞれの心の状態や、人間関係、各教科の理解度など、十分把握しながら、教育できる規模が良いのではないか。

32	あらたな「大規模校」は適切ではないと思います。せめて、「大規模校」設置方針は今の段階では決めないで欲しいです。「子ども真ん中」という理念に基づくと、今の段階での子どもの本当の思いや考えはわかりません。14年後が不確定な部分があります。高校にも少人数学級が拡充される可能性も大いにありますし、社会の変化も早く、子どもの環境や考え方も変化すると考えられます。「いじめ、不登校、自殺」等が増加の一途をたどる中で、今後ますます生徒一人一人の顔が見え、できる限り全ての教職員が一人一人の生徒を知っており、接することができることが求められると思います。子どもがたくさんいた何十年前、小中高校のいくつもの学校が大規模校であった時代は、子どもはある意味「放って置かれていた」状態もあったと思います。そんな中でも、うまく学教教育が回っていたかと思います。しかし時代は変わってきました。今から再度その時代の学校規模に戻るのには、無理があると思います。子どもの思いと乖離し、大規模校の定員が埋まらない事態がでてくるかも知れません。その危惧もあるなかで、大きな予算を使い大規模校を建設するのは適切ではないと思います。むしろ、老朽化が進んでいる既存の多くの施設・設備の整備こそが必要です。大規模校では「切磋琢磨」できるとの考えがありますが、小中規模校でも十分その環境はあります。将来的に、一人一人の顔が見え対応しやすく、「対話的な学び」もし易い段階的な拡充での30人規模の少人数学級として、小中規模校（1学年4or5学級以下）が望ましいと思います。そうすれば、自宅から近いところにある程度の数の学校があることになります。そのためには、「教育県富山」が率先して、「学校標準法」改正を求め、「少人数学級、教職員増」予算を各自治体に充てるよう強く国に働きかけて欲しいです。その実現が叶うまで、「教育県富山」として「人への投資」の考えで、県単独予算で措置して欲しいです。それこそが「教育県富山」と言われることになります。
33	小規模校が少なくなりますが、大きな規模の学校は生徒の個別対応も難しくなり、子どもにとっては良くないと思います。是非、小規模校をもっと残してください。また、大規模校の建物は新築となっていますが、現在の建物を利用し、増築することも経費節減、環境にも大変有効です。既存の学校利用を考えるべきです。
34	まず、昨今の少子高齢化の傾向が好転する気配がなく、子どもの人口がどんどん減ってきているため、それに伴って、県立高校を再編していかなければならないというのは、十分に理解できます。ご担当の方におかれては、大変なお務めであろうとお察しします。ありがとうございます。それについてですが、僭越ながら、次の点について、具申させていただきます。この度の再編によって、現存する高校の規模よりも大きな、大規模校を2～3校設けるということに関しては「反対」いたします。令和7年度の全日制課程の高校のうち、1学年あたりの募集定員が最も多いのは、富山工業高校の320人かと思います。再編によって、これよりもはるかに大きな定員400人～480人程度の高校を、それも「新築」で設置されるということには疑問を禁じ得ません。子どもたちに多様な選択肢を与えてあげる必要があるということは一定程度理解はできるのですが、それにしても現状よりも規模の大きな高校が必要とは思えません。大規模校の設置をなくせば、中規模校を19校～21校程度、設けることができます。小規模校と合わせれば、全県で20校程度とされていたのを25校程度に増やすことができます。子どもたちに、学校規模の選択肢を与えることも大事かもしれませんが、学校数の選択肢を与えてあげることも同じくらい大事ではないでしょうか。
35	人口減や公共交通機関の衰退を考えると、大規模校は富山県の実情に合わない。通学の利便性や地域とのつながりを重視した学校規模や地域配置を求める。
36	生徒数減少のため、1学級の人数減、あるいは将来的に学校数減（できれば小規模でも残したい）は致し方ないかもしれないですが、大規模校よりも小・中規模校が多い方が良く考えます。通学面を考えても、一極集中しすぎない方が良くと思います。
37	大規模校を新築するように読めますが、ただでさえ県予算が苦しいのに、県庁の新築も今後必要かも知れないのに、そんな余裕はあるのでしょうか。今ある建物を利活用する方向でまず考えるべきではないでしょうか。いくらかかるかも検討せず闇雲に新築というのは、地方財政を悪化させたバブル時代の事業者の発想であり、人口減少時代の富山県には全く相応しくありません。もっと幅広く、専門的な知見を集め、教育関係者が中心になって、深く、広く考えて方針を決めるべきだと思います。
38	【概要p4】大規模校 大幅な学校数の削減を打ち出しながら大規模校の新設は認められない。しかも拠点校という位置づけは中・小規模校との格差を制度化するもので強く反対します。
39	マンモス校で子供時代を過ごした身としては、大規模校のいいところは部活動の種類が豊富なことです。ただ、今はあの時代には考えられなかったようなスポーツやスポーツ以外のクラブチーム活動があります。そしてクラブチーム活動を行っている子は大勢います。クラブチームで活動しているけれども学校で部活に入らなければならないので、しょうがないから幽霊部員で〇〇部所属、なんて子供も多いです。私は塾の先生が営業対象の仕事もしているの、で、先生方から今時の小中高校生の話をよく聞かせてもらいます。今時のクラブチームの種類の多さには驚きます。野球かバスケットか書道かそろばんか、なんて時代とは違うのです。また、部活動の種類が少なくても選択肢が少なくても、その中からやったことのないことにチャレンジしたらいいと思います。部活の種類が多くても中学校で初めて〇〇部で〇〇をやった、なんてことは子供が大勢いた時代でも当たり前でした。さらに高校に入ったら中学時代にやっていたことの部活がなく、中学時代になかった部活がある、ということも当たり前のことでした。また、大規模校で切磋琢磨して、という言葉もよく聞きます。確かにそんな面はあるかもしれませんが、そうやって頑張る子もいるでしょう。が、逆に最初からあきらめてしまう子供もいると思います。クラスに30名しかいなくても十分切磋琢磨できます。当然です。5名や6名ではないのですから。30名もいれば足が速い子も成績がいい子もいるでしょう。大規模校でも小規模校でも切磋琢磨はできるのです。子どもが減るから学校の数を減らす、こんな単純な構想には全く賛同できません。この機会に、富山県しかできないことをやってほしいです。大都会ではできないことをやってほしいと切に願います。
40	令和20年度（14年後）に「県全体の募集定員は4,000～5,000人程度と見込まれることから、全県で20校程度（平均募集定員200～250人）とし、学科の組み合わせにより様々な学びの場を提供する。」という案はあまりにも乱暴な高校つぶし計画です。「県全体の募集定員は4,000～5,000人程度」というのは大雑把すぎるうえに、「全県で20校程度（平均募集定員200～250人）」とする根拠が何も示されていません。「適正規模」の検討が行われておらず、平均の募集定員を定める理由も不明です。学級定員、学級数、公私比率、普通科割合、4学区ごとの配置バランスなどを一切示さずに「1学年あたりの募集定員」のみを決めるのは不合理です。すでに「県立高校20校」という数字が独り歩きし、乱暴な高校減らしに対する憤り、不安など様々な悪影響を及ぼしています。さらに県議会での知事の「すべての高校が再編対象」との答弁は、いっそう不安と混乱を引き起こすものです。
41	5ページ 今ある学校と照らし合わせれば、破壊的な計画であることが明らか。

42	教育内容（学科構成）と学校規模の組み合わせ、配置数の目安について 素案を基にすると受験生の25%以内が大規模校に、中規模校へは受験生の65%以上。そして受験生の10%以下が小規模校へという目安になりますが、誤っているでしょうか。もしこれが概数的な範囲内とすれば、素案の高校再編は、少子化に伴う現状の統廃合の域を脱していないのではと考えるのは間違いでしょうか。現状の統廃合に普通科改革科目をつけたとしか考えられません。高校生の大学を含めた高等教育機関等への進学率は76.2%。高校生の大方の生徒が高等教育機関等への進学を考えていることになります。ここを起点にすれば、大規模校はつくらず、中規模校を中心として、学科構成パターンは、（A）（B）（C）（F）とし、小規模校は、（B）（F）のパターンとすることで生徒の能力・適正や興味・関心等を踏まえた学びの実現を図り、予測困難な時代到来への対応とすればと考えます。
----	---

Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

43	現34校を20校程度にするというのはあまりに極端で反対です。 これまでの経緯をベースに考え直すべきである。例えば生徒急増期に十分な先見性もないまま新設した高校からなくす方向性もある。
44	この（案）にしたがえば、中学校卒業生に占める募集率、普通科割合の学区ごとの均衡を保つことが一層難しくなってしまいます。
45	県立高校改革の件 1. 中国からの希望も多い東大を目指す高校の定員をもう1～2クラス位多くしていただきたいです。京大も含め名古屋大も目指す生徒の力になって下さい。 2. それには中部高校、富山高校のクラスを1～2クラス多くしてください。今年の状況も富山80に対して128、中部80に対して187ともう1クラス出来る数です。探究科学科の科が1クラス位多いのです（志願者が）。折角勉強したい生徒たちが沢山いますので希望をかなえてやってほしいです。普通科はあまり多くないですが、探究科学科に入れなった生徒たちが普通科へ回されてくるのです。すると普通科の倍率が高くなり、普通科で沢山の生徒が落とされてしまうのです。普通科で合格できなかった生徒たちが中部も富山高校も1クラス～2クラス位普通科で落ちてしまうのです。折角優秀な成績の良い生徒たちが富山や中部高校に集ってきているのに、たくさん不合格にしては、富山県の損失です。もう2クラス中部も富山高校も探究科学科を増やしてください、お願いします。私の娘も富山高校でしたが、全教科出来ましたが、特に数学が好きで得意でしたので本当は探究科へ入りたかったのではと思いますが、普通科にしましたが、ちゃんと国立大の工学部に合格できています。塾は小学校から1度も行ってはいなかったのです。富山高校の南側ですので、富山高校の案内はありました。富山高校の先生が塾は行かなくても先生たちが教えますので、大丈夫ですという話（説明会）がありましたので、富山高校に決めたのです。4人兄弟いますので、一人が塾に行くことになると思っておりましたが、末の子が小学1年の時、皆塾に行きだしたので、担任の先生に塾へ行った方が良いか聞くと「〇〇ちゃんは塾へ行かなくてもちゃんと大学に入れますよ」と言われたので、そのまま塾へ行きませんでした。塾へ行かなくても良いと言われた富山高校に入ったことにより、ちゃんと国立大学に合格でき良かったと思います。ですからやはり、勉強の得意な勉強の好きな生徒たちが折角富山と中部高校目指しているのに、合格をたくさんの生徒が出来る様に1～2クラス探究科学科を中部も富山高校も増やしてください、お願いします。勉強のできる生徒達を沢山つぶさない様にしてあげてください、お願いします。管轄があるのか、富山高校の説明だけで中部高校からは説明の先生はいらっしゃいませんでしたし、親戚も富山高校に行くことが多かったのに、富山高校が自然でしたが、中部高校も良いように思えます。県外の親戚から中部高校が良かったのではと言われたこともありましたが、家からも近い富山高校しか眼中にありませんでした。しかし、市内の位置から見ても北の方は中部高校、南の方は富山高校という感じですので、両方共、互いに勉強の出来る生徒達、勉強の好きな生徒達の希望通り合格できますように1～2クラスは、探究科学科を増やしてあげてください、お願い致します。 3. 八尾高校について、富山の南側では、進学校としては、八尾高校が昔からあり、皆近くの人達（南側）は八尾高校へ行く事が多いのです。この八尾高校からもちゃんと、国立大学へも行けています。先生方もしっかり受験に対しての勉強を教えてくださいますので、この八尾高校からも国立大学は行けますので、八尾高校は、残して頂きたいです。この高校は特色があるのです。今年ニューヨークタイムズの2025年行くべき旅行先として、富山市が選ばれましたが、その中におわらがあるのです。この八尾高校には、郷土芸能部とう部活動がありまして、おわらを上手に踊る事が出来るのです。体育大会があり、全校生徒皆で、おわらを踊る事がありますが、その時良いお手本となり、郷土芸能部の方達を中心となり、おわらを踊ってくれます。父兄も見に行けますので、身近におわらを見る事ができますし、八尾高校生徒は皆、おわらを踊れるようになるのです。この様に世界からも、注目をしてくれているおわらを続けて行く為にも、八尾高校もおわらと同じ様におわらを習っている高校なので残して行って欲しいです。富山市の南方で、八尾高校は、発展してほしいです。南方から、南高校は通学しづらいのです、地理的に。いずみ高校は、市の中心にあり行きやすいと思いますが、総合学科は普通科にした方が大学に行きやすいと思われます。高校授業料が無料となると、私立も人気が出ると思われますが、いずみ高校が普通科になった方が生徒は大学を目指し、集まりやすいと思います。

46	素案において、「バランスのとれた配置」とありますが、具体的にどのようなバランスを考えているのかが見えないため、不安があります。公共交通機関の利便性から、市内に集中しすぎないかを心配する人が非常に多いと思います。
47	定員割れの学校を統合するという意見がありましたが、すべての子どもが成績優秀なわけではないことを視野に再編してほしい。同じ偏差値のところを合併するなどもあるんじゃないですか？
48	学校文化や伝統の喪失 統廃合により、長年培われた学校の文化や伝統が失われる可能性。部活動の統合や廃止が進み、生徒の活動機会が減る恐れ。統廃合する学校の伝統や文化を新学校に継承する仕組みを設ける。部活動の統合に際し、活動場所や指導者の確保を事前に調整する。
49	高校が無くなった自治体の衰退は必至である。現在定員割れを起こしている学力上位校の募集定員を減らすことで、学力下位校や地元の産業の担い手づくりに貢献している職業系の高校を存続させてほしい。
50	地域にとっての学校の存在の重要性を十分考慮することは「子どもの学習権保障」と矛盾しません。市町村のエゴであるかのような決めつけは間違っています。
51	富山県は、コンパクトな県で、15 市町村の構成となっていることから、1 市町に高校を最低 1 校の配置が可能ではないか。そして、4 広域圏のバランスを考慮して残りの学校を配置してはどうか。
52	通学の負担増 学校の統廃合により、一部の地域では自宅から遠くなる可能性がある。公共交通機関が十分でない地域では通学手段が限られ、親の送迎負担が増える。スクールバスの運行を拡充し、遠方の生徒の通学負担を軽減する。交通費補助制度を導入し、通学コストを抑える。
53	それに交通費もかかるわけで。近所に高校があることで交通費がかからず助かるというメリットもあるんですが、、、。
54	今後、公共交通機関の維持が危ぶまれ、運賃も値上げされるなど、通学の便が悪くなることが予想されます。全体として通学距離と通学時間が長くなる生徒を増やす案は根本的な矛盾を抱えています。
55	小学校や中学校などは独自の交通手段などを行政対応もされながらもあるが高校生などもそのような補助なども必要ではないでしょうか？立て直す時期などもあり今後、交通機関が近い場所にて設立統合も考えてもらいたい。
56	交通弱者の高校生が、毎日のように登校します。高校の所在地までの通学の利便性を高めるため、新高校を駅の 2km 圏内に設置してください。自宅が公共交通機関から離れたところにある者もいます。通学コストカットの為、電車やバスのフリーパスを高校生にください。駅近が難しいのならば、バスのピストン輸送やバスターミナルの設置など、通学保証の学校設置者としての責務を果たしてください。
57	大規模校が中心部に集約されることで、通学の費用や時間の負担もでてくるかと思います。
58	6 ページ 「移行準備校」は、今ある学校が古い良くない学校と言っている。
59	徐々に再編結果を小出しにし、現場の教職員と在校生を苦しめるのではなく、速やかに完成した姿を見せて県民の判断を仰ぐべき。再編してよかったと思える姿を提示してください。

Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針

60	「中高一貫校」を導入していないのは要らなかったからです。富山が遅れていると卑下する必要はありません。他県では、中学入試競争の激化が起こっており、選択肢を増やすという理由だけで導入することは危険です。
61	国際バカロレア認定校設置は適切ではないと考えます。地方自治体が一部の人に偏った教育費をかけることになり不公平ではないかと思います。また、この学校で学んだ子どもたちは、多くが地元から離れていくことが想定されます。そうなれば、富山県内で人やお金が環流するかは疑問です。子どもたちが地元に残ってくれるような学校が大切で、そこに教育費をかけていくべきです。「地方人口減」の観点からも「バカロレア認定校」には、疑問が残ります。公教育の目的は、①『人格の完成』の実現、②『心身ともに健康』な国民の育成、③国民が平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質を備えることです。
62	概要版の(2)学習内容(学科構成)に、⑦総合学科では、是非とも全国募集の導入を盛り込んで頂きたいと思います。現在の小杉高校は、美術・スポーツ系列という系列があり、総合学科でも全国から芸術やスポーツ(柔道・野球・女子ハンドボール)に優れ、意欲・興味・関心のある生徒を広く募集すべきだと思っております。とりわけ、小杉高校柔道部は、県内屈指の強豪校として県内外に知られており、柔道部OB・OGにはオリンピック金メダリストをはじめ、世界・国内で大活躍した選手も多く輩出しております。
63	昨今、県内の少年スポーツ界では、小学校から中学校へ、また中学校から高校への間に、県外の魅力ある私立学校(中高一貫校など)・私立高校に進学する生徒が増加傾向にあります。県外へ転出した子どもたちの数以上に、県外や海外からの生徒を本県に受け入れるべきだと考えます。その施策の一貫として総合学科にも全国募集や外国人枠の導入を盛り込んでいただきたいと思います。また、⑧の職業系専門学科も将来の県内事業所の生産人口の増加を見込んで、外国人枠の導入やスポーツで全国・世界の檯舞台で活躍できる選手を全国募集することが必要不可欠と考えます。④未来創造では、学習内容の一部に部活動の強化と記載されていますが、他県の私立高校のように駅伝やバスケットボールなど、海外からの優秀な外国人ジュニアアスリートを受け入れ、本県の競技力の向上を一層図るため、外国人枠の導入が必要と考えます。
64	私立高校側から富山県の県立高校が羨ましがられるような「新時代とやまハイスクール構想」が望まれます。普通科系学科の③グローバルに外国人枠に○が付けられていないのが大変疑問を感じます。国際感覚をもって海外と関わる人材の育成を目的とするならば、優秀な外国人の生徒を本県高校教育に受け入れるべきだと考えます。
65	全国募集、外国人枠などもどんどん実施するべきだと考えます。
66	統廃合が進めば、空いた学校等の施設は寄宿舎として利用できるの、山間部や、氷見、朝日といった県の端の地に暮らす人でも、中央の高校を選べるようになると思います。
67	本県に海外や県外から生徒を広く受け入れるためには、県内に学生寮の設置が望まれます。今後増えていくことが予想される廃校となった空き校舎や教育施設等を活用して、富山県青年育成寮として改修・整備し、その施設を寮と併設して、広く地域住民に生涯学習の場や学校開放(スポーツ活動)の場を提供して利用してもらえるような施策が必要と考えます。今後魅力ある県立高校となりますよう、他県に負けない活力のある人材の育成の場となりますよう大いに期待しております
68	高校の数を大幅に減らすことは決定事項で、新しく大規模な学校を作る構想もあると知りましたが、生徒にとっては学校の選択肢が減ってしまうことになり、通学の困難さから希望する進学先をあきらめるという事態が多くなると思います。この際、学校に通うという発想ではなく、コロナ禍でできていたりリモートで行う授業を、通信制教育にならって、全日制の学校でももっと推進するべきではないでしょうか。
69	実習や集団活動を基本とする教育以外で、家庭学習でいけるものは積極的にリモート化し、全体的に生徒の学校内での拘束時間を短くするように努める。週あたりの登校日自体をもっと減らすようにすれば、今問題になっている、教員の負担過多の問題や、部活動地域移行の課題なども進めやすいのではないのでしょうか。
70	色々とテンコ盛りの内容だったが、何をしたいのかよくわからなかった。予算削減に合わせた高校の差別化で、大規模校の導入はその典型に見えた。問題を抱え込まず、もっとNP0等の外部の力を活用する事を考えた方が良いのではないかと思えた。
71	専門学科の進路選択の難しさ 進学や就職を考える際、従来の学科体系のほうが分かりやすい可能性。「新時代ハイスクール」の学科が大学や企業に適切に評価されるか不明。新学科の名称や目的を明確にし、大学や企業に適切に評価されるよう調整。進路指導の専門家を配置し、学科選択時の支援を強化する。

72	外部へは無償ボランティアではなく相応の予算を用意すること、内部の現教員に対しては現在の給与水準からレベルアップに応じて上昇させること、が現場に活力を与え、形だけでなく実のある成果を生み出すものと思われれます。例えば、上述の外部資源としては、自治体や営利企業ではカバーしきれない専門性を持った非営利団体(NPO や一般社団法人等)が挙げられます。建物などハードに予算を割くことはわかりやすいのですが、教育において大切なのはソフト面、すなわち方針を立てる人であり実際に現場に立つ人であるので、多少ハード面を犠牲にしても、ソフト面を重点的に扱うことが構想を実りあるものにする다고考えます。
73	構想にあたって、普通系学科が従来のレベルから STEAM、グローバル、未来創造、他 2 つのようにそれぞれの方向に専門性のレベルを上げていこうとしているものと思われれます。そこで、現状の教育学部卒業者(学部卒)で構成される教育現場がこのような変化に耐え得るために、外部からの専門的な教員(教育学部以外の学部卒業者や、各分野での博士や修士)を採用したり、そのような専門性・準専門性を持った教員を現教員への研修者や教育コンサルタントとして利用するなど、積極的に外部の資源(リソース)を活用されるのがよいかと思ひます。
74	教育の質の維持 新しい学科編成が本当に効果的なのか、十分な実績がないため不安が残る。教員の適応・研修が不十分だと、指導力の低下につながる恐れがある。新たな教育方針に対応できるよう、教員向けの研修プログラムを強化。外部の専門家や企業との連携で授業負担を軽減し、指導の質を向上させる。
75	学校を新たに作るという計画だが、箱モノにお金をかけるのではなく、同じお金をかけるのであれば、教員を増やし、教育内容を充実させることが重要である。生徒にとって、40 人で授業を受けるより 20 人で授業を受ける方が、質問などもしやすく学習効率は良いだろう。また、教える立場からすれば、当然 20 人の方が目が行き届き、生徒に合わせたきめ細やかな指導が行える。よりよい教育の提供のためには、新たな学科を新設するより、教員の数を増やし、少人数での教育を行うことが近道である。特に、小学校や中学校の学習の学び直しが必要であったり、生活や人間関係に問題がある生徒に対しては、教員 1 人当たりの担当生徒を少なくしなければいけない。そうしなければ、生徒は十分な指導を受けられない、教員は十分な指導を行えない。その結果、お互いに疲弊してしまい、教育効果が上がらないという悪循環に陥ることになるだろう。教育は人が人を教えるものだと考える。
76	多様な選択科目は県単措置で教員を増やさないと設定できない。教員をどれだけ増やすか言わずにバラ色のイメージをばらまくのは無責任。県単措置を何人置くのですか。
77	教員の負担増加 新たな学科・カリキュラムの導入により、教員の研修や準備が増え、負担が増大する可能性。経験の浅い教員が新しい教育スタイルに対応できるか不安。人口が減っていく中で人材の確保が困難であり、一人の教員が担当する業務が増える可能性。学校ごとの特色を活かしたカリキュラムを維持し、生徒の学びの多様性を確保。外部評価機関を活用し、定期的に教育の質をチェックする
78	全体としては、限られた教育資源の中で知恵を絞られていると感じます。しかし、様々な規模の学校や学科が用意されても、通う生徒が、何をどのように勉強すればよいかが分からず学習意欲が低下した状態では、せっかくの理念も実現されません。多くの中学校、高校で見られる、上位数パーセントだけが意欲的、自主的で、他は総じて「勉強嫌い、勉強アレルギー」になり、「自分は頭が悪いから」と、知的な好奇心を抑え込んでいるような状態を改善していくためにも、この再編の機会に、高校の入試制度と中学、高校での学習指導のあり方を検討していただきたいと思ひます。規模や学科の議論だけでは、生徒の学習意欲の低下という、今現在の学校教育の課題が温存されてしまうのではないかと懸念しています。入試制度について、入学試験がある以上、中学生は、自身の成績で志望校を選択せざるを得ません。そこで、入学試験を各校独自に実施し、学力レベルや優先的に勉強する分野が中学生に分かる方式にすべきだと思ひます。例えば、『STEAM』や『グローバル』の学校は、成績最上位層が対象になるため、現行の県内一律の入学試験よりも高い学力レベルを要する、独自の入学試験にすべきだと思ひます。また、中高一貫校は、中学時点での通学距離に不公平感が出るので、県内どの地域でも、難関大学進学希望者が、中高の学習の連続性を確保できる仕組みを考えるべきだと思ひます。そこで、成績上位層の高校では、学力ベースの推薦入試を検討してはどうでしょうか。難関大学を目指す生徒にとっては、中学校の学習範囲の難問よりも、高校の先取り学習をしたほうが、一段と難しくなる高校の学習についていきやすくなります。早い時期に、学力ベースの推薦入試を実施すれば、その時点で十分な学力のある生徒は、合格後に高校の先取り学習を進めることができます。英検などの検定試験やプログラミングに集中して取り組むのもよいでしょう。最も人数の多い中間層が対象となるであろう『その他の普通系学科』や『総合学科』では、勉強の努力が点数に反映されやすい基本問題が主体の入学試験が良いと思ひます。やる気を出して勉強しても点数が伸びなければ、受験勉強のモチベーションが維持できません。そういった点で、最近の思考力や読解力を試す問題は、基礎学力が不十分な生徒には逆効果になっています。受験までの限られた時間で、基本問題を反復学習し、モチベーションを維持しながら、義務教育範囲の基礎学力を身につけるほうが、高校進学後にスムーズに高校のカリキュラムに入っていけると思ひます。『職業系専門学科』では、五教科の他に、差をつける目的ではなく、高校からのメッセージとして、必要分野の基礎的な知識を問う独自試験を設け、中学生に優先順位をつけて勉強するよう促すのが良いと思ひます。例えば工業科であれば、数学から二次関数、三平方の定理、理科からは物理、化学の中の必要分野を。商業科であれば、地理の産業、公民の経済、基礎的なビジネス英語を。農業科は、理科の窒素・リン酸・カリの元素記号や化学反応、天気や気象、地理の気候と農業の関係を。福祉科は、公民の憲法の生存権や社会保障制度、理科の体のはたらきを。以上のように、中学校の学習範囲から将来を見据えた学習は可能です。中学生にとっても、高校入学前からその分野の意識を高められるメリットがあります。

79	「公私比率の撤廃」「私学への就学支援金の拡充・教育の無償化」が進む中、施設設備が整備されている私学が多い中で、公立高校の環境整備が重要です。
80	募集定員はあくまで「受け入れ可能上限人数」です。この数字が充足していないことを殊更に問題にして学校統廃合の口実にすべきではありません。標準法の教職員定数は「実生徒人数」ではなく、「収容人数」にもとづいて算出されます。公私比率は現在、県立：私立＝70.8：22.6となっていますが、全国的にも低い募集率を引き上げるべきです。
81	全ての高校が再編の対象ということですが、実質的には、存続する高校と閉校する高校という捉え方になると思います。各学校には、特色・相応の歴史があります。閉校となってしまう高校を少しでも減らせないか、という思いで述べさせていただきます。県立高校の再編ということですが、それと並行して、現存する私立高校との調整も必要かと思えます。年少人口がどんどん減っている中で、県立高校だけを再編していても、歪なバランスになっていくかと思えます。私立高校の方も、相応に定員を減らしていただければという、調整をお願いします。
82	そもそも高校再編の中長期計画策定の前に、再来年度の学級定員、学級数、公私比率、普通科割合、4学区ごとの配置バランスなどはどうするのか。拡充してきた少人数学級を今後どうするのか。しっかりした議論が必要です。募集定員の前提となる公私比率を検討している「公私立高等学校連絡会議」を公開することも必要です。
83	特に、いわゆる「落ちこぼれ」をなくし、全体の底上げを図り、全ての子供がいきいきと、のびのびと学校生活が送れるようにすることが大切ではないか。教師は、得てして、いわゆる成績の良い子を優遇（可愛がる）する傾向にあるが、できない子供のレベルを引き上げることこそが教育の大事な使命ではないか考える。
84	高等学校とは直接関係ありませんが、特別支援学校も巻き込んだハイスクール構想にならないかと考え、意見を述べさせていただきます。富山県では軽度知的障害のある生徒が就労を目指す学校として平成25年4月に富山高等支援学校（県東部）と高岡高等支援学校（県西部）を開校されました。2校は今年度、創立12年目となり、10期生を社会に送り出すところですが、富山高等支援学校では、3年生の全員が障害者雇用として企業等から内定をいただき、新生活に向け、準備をしているところです。ところが、近年、障害があっても（療育手帳等を持っていても）私立高校や定時制・通信制、県立高校等へ進学するなど、進路選択の幅が広がってきています。富山市郊外にある富山高等支援学校も通学の困難さからか生徒を集めるのに苦労しています。今後、さらに障害者雇用率が上がることは決定していますし、どの職場にも障害のある方は勤務され、様々な人と協働する時代になると思います。そして、その基礎を築く高校時代にも、高校生同士が互いに認め合うような教育を実践する必要があると思っています。 ところで、近年、インクルーシブ教育という言葉もよく耳にするようになってきました。他県では、高等学校と高等特別支援学校の在り様にも様々なものが見られます。例えば、沖縄県立の高校併置高等特別支援学校（同じ敷地内に設置：日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通じて共に学び共に助け合う教育を実施。） ・沖縄県立南風原高等学校 と 沖縄県立南風原高等支援学校（産業科） ・沖縄県立中部農林高等学校 と 沖縄県立中部農林高等支援学校（総合実務科） ・沖縄県立陽明高等学校 と 沖縄県立陽明高等支援学校（高等産業科） ・沖縄県立南部商業高等学校 と 沖縄県立やえせ高等支援学校（産業科） 名古屋市立の商業高校と高等特別支援学校は廊下でつながっている。（教育課程の連携。学校行事、教科学習、部活動等を共に実施。） ・名古屋市立若宮商業高等学校と名古屋市立若宮高等特別支援学校（産業科） https://www.nagoya-c.ed.jp/school/wakamiya-h-sh/facilities.html 奈良県立の高等学校内に高等養護学校の分教室がある。（学校行事や、部活動を共に実施。高円分教室では美術の授業を共に学ぶ。） ・奈良県立高円芸術高等学校内に奈良県立高等養護学校高円分教室 https://www.e-net.nara.jp/sns/koutouyougo/index.cfm/1,0,60,159.html ・奈良県立二階堂高等学校内に奈良県立高等養護学校二階堂分教室 https://www.e-net.nara.jp/sns/koutouyougo/index.cfm/1,0,61,160.html などです。 富山県でもせっかく作っていただいた高等特別支援学校ですから、今後も障害のある生徒が就労を目指す学校として、一人一人の生徒の能力を磨き、育てていかなければいけないと思っています。と同時に、県立高校では、近年、せっかく入学したにも関わらず進路変更をする生徒も複数いると聞きます。また、療育手帳を持ち、障害がありながらも定員に満たない県立高校を志願し、入学はしたものの、結局、授業についていけず、困っている生徒もいると聞きます。中学校を卒業する段階での適切な進路選択も大切なのではないかと感じるところです。「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」が、高等学校の規模や設置場所だけでなく、障害の有無に関係なく皆が学び合える「富山県教育構想」になるよう、特別支援学校も巻き込んだ県立高校の検討になることを願っています。
85	昨今不登校などで悩み、でも学びたいと思う子供たちもいると思います。人とコミュニケーションが取れないことに悩み、いじめに悩み高校進学を諦めている子供たちのためにも、もっと通信制の高校が増えることも希望します。

86	特別支援学校においては、今後どのように変化していくのかが気になります。（個人的には、いずれ特別支援学校も統合していくと考えています。）現在の私の勤務校では、高い就職率が特色であり、自然豊かな環境も魅力です。学校紹介でもそのことをアピールしています。しかし、立地的なことを考えると大沢野へ行くための公共交通機関がバスのみであることや、通学に時間が掛かる傾向にあることから、通学の不便さを感じ、学校選択をしていない生徒も多いと思います。毎年の募集も大変難しい状況であるように思います。自分の勤務する学校が、今後いつまでも続いてほしいという思いとは別に、生徒数の激減や学校教育の環境改善の点から、いずれ統合の流れが特別支援学校にも及ぶのではないかと考えています。例えば、富山県立富山特別支援学校なるものが設立し、その中に軽度知的、聴覚障害、身体障害などの生徒が在籍するとか、インクルーシブ教育の視点から、再編される高校の中に特別支援教育の生徒も在籍できるようなシステムにするなどです。また、呉東において、軽度知的を対象とする富山高等支援学校と富山聴覚支援学校において、違う特色（作業学習においても、農業系や福祉系などと差別化を図るなど）をもち、編成をしなくても変化していくなどもあるかもしれません。学校再編について、特別支援学校の視点においても、今後議論がされていくのではという思いから投稿させていただきました。読みにくい内容ですみません。
87	構想について、目指すものや志は理解した。併せて議論を進めてほしいのは、不登校や行動における問題など、学校不適応の生徒（主として高校生年代の）について、若者の社会への適応、社会的自立への支援を目指した公的機関の設置である。学校不適応が増加していることは、社会問題であるので、その解決には行政の責任ある取り組みは必要不可欠である。現状の高等学校においては、その対応は各学校に一任されており、また、単位制高校や民間のフリースクール、N校、S校などの通信制高校などが受け皿になっているのではないかと。ほとんどすべてのケースが個々の問題として扱われ、体系的であったり、組織的ではない。高校現場で対応する教師も、臨床心理や医療、福祉についての専門知識を学んでいる者は皆無で、常に経験や勘に頼っている場合が多いことから知見やノウハウも継承されにくい。不適応の若者が、知見、経験豊富な人間味のある教師、スタッフに囲まれ、安心してリスタートを切ることのできる環境を望む。具体的には、高校生活に不適応、中退者、復学したい者、学ぶ意欲がある者、大学進学や就職を目指す若者たちに教科の授業を行い、学力の保障を得ること、キャリアガイダンスを含む、発達段階に応じた進路指導を行うことができる機関の設置を考えていただきたい。教育に関する、社会的課題を解決するための教育行政であってほしいと願います。
88	当事者の意見反映について 素案の中では、高校に行く当事者、高校生や、今後行く中学生や近年行っていた高校卒業世代（18～20 代位）への意見反映、意見聴取は行われたのか？素案からはよくわからなかった。今、子どもの意見聴取の重要性がいわれており、子どもの権利条例でもできるだけ幅広い子どもの声を反映する努力がされているところであり、それが十分されたのであるのか？そこはどこに反映されているのか？意見の聴取は声が出にくい環境の子ども達や高校終了の世代に的確にアプローチすべきです。社会的養護（施設・里親の子）、障がいをもつ子（親や支援者を通じることもあり）、ヤングケアラー・不登校など学校と十分かわかってない子、ひとり親の子供・保護者、外国人の子ども等々、少数であって、かつ、高校を選択する可能性がある、あるいはあった方々へは必ず意見をききとるべきです。弱者、少数者への目配りを求めます。よろしくお願いします。
89	行政機関のパブリックコメントという、どうしてもアリバイ作りの側面があると思います（独断で進めていったのではなく、「一応」、県民に意見を伺った、という体裁をとるためのもの）。県立高校の再編については、県民全体を巻き込んだ大きなテーマです。ぜひとも、結論ありきではなく、パブリックコメントで寄せられた意見（今回の私の提言に限らず）のうち、「なるほど」と思われるものがあれば、本当に採り入れていただきたいと思います。以上、どうかよろしくお願いいたします。
90	貴教育委員会が行った高校生と教職員アンケートが公表されている。将来の高校像については、「学習内容の自由さ」「共通教科の充実」「中規模校」が多く求められている。子ども真ん中政策をいうなら、子どもの権利条約制定を目指すなら、この要求にまっすぐに答えるべきではないだろうか。そのために、教育行政は、教育条件の整備に尽力すべきである。例えば・小学校・中学校の全国学力テスト中止を文部科学省に働きかけるほか、学習指導要領にしばられない各校独自の教育をみとめる・学級定数を20人にし、教師と生徒・生徒と生徒が討論しやすい学習環境にする・教職員を増やすとともに多様な校外学習の教育施設を整える等学校教育は発達段階に応じて人格の形成を図る場でもあり、教育の目的を経済優先、単なる人材育成にのみ偏重する考えには反対だ。教育委員会には、教育の条理に基づく姿勢を貫いてほしい。ご奮闘を期待します。
91	学校再編による混乱 再編によって学校の特色が大きく変わり、保護者や生徒の混乱を招く可能性。途中で制度が変わることで、在校生への影響も懸念される。段階的に再編を実施し、在校生への影響を最小限にする。統廃合前に保護者・生徒との意見交換を頻繁に行い、納得感を得る。

92	新時代とやまと言うくらいですから、今からの子供達がどういうことに興味を持っているか、をまずは知るべきです。子供たちにとってお爺さん、おばあさんと言った年代の方々が述べている意見などよりは今まさに子育て世代こそ意見を聞いていくべきではないかと思います。富山は残念ながら、子供たちの目線では魅力がありません。 年寄りの県という風にしか思えないとせっかく富山でも学んでもその先は東京や大阪、金沢などにしか行かない、就職したいと思う会社がないと南砺市にアニメの会社がありますが、それも富山県では活かせてないのでは？とデザイン科のある学校も、県立よりは私立の方がアニメやゲーム、CGなどが学びやすい環境でもあります。 今の、これからの子供たちの興味、やりたいことはそういうことが重きにあると思います。そればかりではないでしょうが…地元で学びやすい環境、就職しやすい環境づくりを希望します。
93	人口減少のための学校統合は仕方がないとは感じるが次世代、今の小学生世代の子供がおられる親御さんたちの今後の学校編成などの考えはどうなのでしょう？
94	私は1学年2万人以上いた世代で、一クラス45名学級の1学年13クラス14クラス15クラスの県内No.1のマンモス中学校で子供時代を過ごした50代です。 でも、ここまで子供が少なくなった時代に「一クラス40名はそのまま」「大規模校をつくる」という富山県のプロの皆様が練りに練って考えに考えた結果の案には全く賛同できません。 私は今、本業ではありませんが、教員免許を持っているので、不登校で中学校時代に全く学校に行けなかった子供が多数在籍する通信高校でたまに授業を行っています。中学時代は全く学校に通えず4月に入学してきた子たちが、通信高校でありながら積極的にスクーリングに参加して、ボーリング大会などのお楽しみ行事にも参加し、中学時代にできなかったことができるようになったと嬉しそうに報告しています。10名から20名のクラスで、全員に先生が目が行き届いていることを感じます。 富山県は来年度の予算で「フリースクール」など、子どものための施策にお金を使うつもりだということは承知しています。でも、そもそもフリースクールに行く前に近所の中学校に通いやすくなるよう、先生たちもクラスの子供たちに目が行き届くよう、子どもたちが自分は気にかけてもらっていると感ずることができるよう、1クラスの人数を減らすことは考えないのでしょうか？なぜそこにお金を使わないのか、不思議です。子どものために、といいながら、自治体の大事な仕事である公教育を放棄していると思えませんか。公立高校では十分なケアが受けられないと親や子供に思わせ公立離れを促進し、高校教育を外注にもっていきたいのかな？とさえ思いました。超有名私立の進学校がある都会ならまだしも、公立高校でも十分な教育を受けられるという田舎ならではのよさを、せっかくのよさを放棄していると思います。そんなことは少子化とはいえ、そこそこ子供がいる都会に任せとおけばいいのに、とも思います。子どもの少ない地方こそ、公教育に力を入れるべきだと思います。 誰もが一定水準の教育を受けられることで、どれほどいい効果があるか、そんなことは歴史を見ても現代の世界を見ても明らかです。子どもが教育を受けられない貧しい国は今でも世界にたくさんあります。子供の数が減っているからただただ高校の数を減らす、なんてあまりにも単純で簡単な方法だと思います。県がそんな構想を発表するなんて信じられせん。
95	1クラスの人数ですか、現在は、40人と言われているので、参観日でも高校生は、体格も大きくなっているので、教室が一杯になり父兄は教室の後には入れず、廊下から窓から授業を見る事になります。ですから、40人よりも36人や34人や32人の様に少人数にして欲しいです。しかし、勝手に大人が分かりやすい様に35人としているのは、間違いです。小学校から廊下に並ぶにも、机に並ぶにも2人ずつになる事が多いのです、35人では1人の生徒が出てしまうのです。ですから少人数学校には高校もして頂きたいです。体格は、昔より大きくなっているのに、40人では、教空が狭いのです。そこでの人数は35人は間違いです。奇数ではなく、偶数にすべきです。生徒、児童の事を考えて下さい。35人では机一人の子が出ます。廊下も二人ずつ並ぶ事が多いのに1人だけの子が出ます。体育大会等のグループ作りも35人では多い少ないが出ますので、ちゃんと平等にグループを作るにも36人又は34人又は32人の様に偶数にして下さいお願いします。

96	社会は大きく変化している。裁判員制度が導入され、法改正によって成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、一人前の社会人として選挙権が与えられた。彼らの投票行動がこれからの日本の運命をかえていくはずである。 明治政府はまだ財政基盤も固まっていなかった明治5年に学制を公布し、国民皆学を宣言した。全国に小学校をつくり教員を採用した。近代国家の樹立にはまず国民の教育、国民の能力向上が不可欠と判断したからに他ならない。昭和20年日本は戦争に負け、敗戦国となり、東京はじめ、日本中の大都市が焼け野が原になり、国民は住む家も、明日の食べ物にも困窮していた時に、昭和22年教育基本法が制定され、義務教育をこれまでの6年間から9年間に延長した。全国に中学校を建設し、教員を採用した。日本の戦後の復興にはこの義務教育の拡充なくしては考えられない。 産業界は、同一規格で高品質な工業製品を効率よく大量生産するために、より早くより正確に計算出来、一字でも多く正確に漢字が読み書き出来る人材を求めた。教育界はそれに応えるために、一斉授業で効率よく知識を授けることに注力し、それで人間の能力を測ってきた面があることは否定出来ない。 しかし、時代は変わった。計算力も漢字力も知識量も記憶量もA Iがはるかに人間を超えている時代になった。 人間はA Iに出来ない仕事、すなわちアイディア・独創性で競う時代になろうとしている。これからの教育の目標・目的はこのアイディア力、独創力をいかにして育てるかにある。そのためには、現在の40人学級では絶対無理である。例えば、1時間50分授業とすれば、40人の生徒が一人1分ずつ発言すれば、それで40分かかってしまう。これが20人学級であれば、一人1分間ずつ発言しても20分間、残りの30分間でさらに議論を重ね、道筋をつけることが出来る。こうして生徒一人ひとりの発言を軸にさらに深めていく授業こそがこれから求められている授業ではないだろうか。 私の娘が30年前アメリカの大学に留学した時、その大学は1クラスの定員は20人と決まっていて、希望者が多ければ、さらにもう1クラス増えたそうである。ある時、生物の授業で議論になって、それでは皆で動物園へ行ってみようということになって、みんなで動物園へ行った、とか、国際関係の授業で、実際ニューヨークの国連ビルへ行くと、そこで一人ひとりシンガポールとかベトナム人になったつもりでスピーチをした、とかの経験を聞いて、とても衝撃だったことを覚えている。こうしたことが出来るのは、1クラス20人だからである。20人であれば、合宿したりキャンプしたり、研修旅行や企業見学などすごくフットワークがよくなるわけです。生徒のアイディア力、独創力を育てるためには、能動的な学びの場を提供していくことが必要だと考えます。現在、日本の大学で行われているようなゼミ形式の授業を先取りして、高校の授業の中に取り入れていくことだと思います。
97	県内全ての高校が1クラス25～30人学級にするべきである。現在の40人学級では教員にとっての負担が大きすぎるし、これから更に負担は増えると懸念される。現場で働いていると一年一年、子どもたちが少しずつ弱く（優しく）無気力になっているのを感じるし、不登校の生徒も増えている。そんな中、学習内容は難易度が高くなり、学校行事は増えて生徒・教員共々それらに追われてゆっくり育むということが抜け落ちているように思う。私自身は教員になって15年ほど経つが体力的・精神的にいつまで続けられるだろうと考える。子どもも大人も行きたくなる学校を創りたい。
98	高校再編で大規模校を作るのではなく、少人数学級の実現に向けて動いてほしい。少人数学級が実現すれば今よりも手厚い指導が可能となる。現在、大規模校では、登校渋りや保健室登校、長期欠席者が多いと聞く。画一的な指導ではなく、個々に応じた指導や寄り添い方が一層求められる昨今、安易な大規模校設置には賛成できない。
99	＜私たちが目指す姿＞ 生徒の学習権を保障し、ゆきとどいた教育をすすめるため、子どもが減っても教育予算と教職員数を減らさずに、生徒減に応じた段階的な学級定員減、すなわち少人数学級の拡充を今後も力強くすすめるべきです。（例えば、40人6学級の240人ではなく30人8学級の240人の学校の方が望ましい。）そのためには、県独自の努力に加えて、一刻も早く、義務・高校標準法の改正を行う必要があります。
100	生徒一人一人の個性や能力、理解度に合わせた教育を行い、多様な進路実現を可能にするためには、大前提として、1クラス40人でなく、30人または20人といった少人数クラスでの学習のほうが効率よくその目標を達成できると考える。
101	スクールミッションを設置者が一方的に学校に押し付けてはいけない。
102	若い人の学びたい内容と、レベルと、環境がしっかり整わないと、どんどん他へいってしまう。富山県は特に若い人（特に女性）の県外流出が多いと聞きますから、ぜひ、抜本的な改革を望みます。
103	親の経済的負担通学費（バス・電車・自転車購入費用など）の増加が予想される。制服や教材の変更による追加費用が発生する可能性。遠地でのPTAなどの役員活動が困難。制服・教材の変更を最小限に抑え、コスト増を防ぐ。統廃合により新設される学校の入学準備金の補助を検討する。PTAなどの役員を廃止し、親の負担を減らす。
104	東京都は中学3年生の修学旅行を海外旅行とし、シンガポールへ行くことを発表していますが、どうか富山県の中学、高校生にも海外旅行を体験させてあげて欲しい。